

# 小学校教職員のコンピュータ利用の特性

Features of the computer use of the elementary school teaching staff

中川 斉史\*

生藤 元\*

堀田 龍也\*\*

Hitoshi Nakagawa

Gen Ikefuji

Tatsuya Horita

三好教育ネットワークセンター\*

(独)メディア教育開発センター\*\*

Miyoshi Education Network Center

National Institute of Multimedia Education

<あらまし>

教育の情報化のうち、校務の情報化については、「教員1人に1台のPCを」という目標が掲げられており、その整備が急速に進んできている。しかし、教員のPC利用のスタイルが、一般的な事務職の利用形態とは異なるため、整備方法によっては、教職員の利用スタイルと一致せず、せっかくのPC整備が無駄になっているケースも少なくない。

そこで、小学校の教職員がどのようなアプリケーションをどのくらいの頻度で利用しているかについて、徳島県三好地域において調査を行い、その結果をまとめてみると、教職員は多数のアプリケーションを短時間の間に頻繁に利用している特性があることが分かった。

<キーワード> アプリケーション 教育用PC 校務の情報化

## 1. はじめに

教職員への公費でのPC配付は、IT新改革戦略の中でも2010年までの目標として掲げられている。教職員がPCを具体的にどのように利用しているかについて、授業用と校務用の2つの利用シーンがあることは認識されているが、具体的にどのようなアプリケーションをどのくらいの時間利用しているかについては、詳細な調査がない。

そのため、教職員用に配付するPCをどのように仕様決定するか決めかねている整備担当者も多くいるものと思われる。

その結果、教職員が利用したいと思っているアプリケーションが、配付されたPCにインストールされておらず、せっかく整備されたPCの利用が低迷しているような例も見うけられる。

このような不幸をなくすため、教職員の利用実態の具体的な調査を行い、今後の教職員用PCの配付の仕様決定に役立ててもらうことをねらった。

## 2. 調査方法

### (1) 調査対象

徳島県三好郡市内の小学校教職員(教員および事務職等を含む)

### (2) 調査期間

2007年1月29日(月)～2月9日(金)ま

での内、連続した5日間(休業日を除く)

### (3) 調査内容

質問紙により、勤務時間中における各アプリケーションの使用時間を5段階で聞き、数値化したデータを回収。調査内容については、表1と表2の通りである。

表1 質問内容と選択肢

次のアプリケーションのうち、職員室で使った時間に応じて記号を付けてください。

- ・使わなかった
- ・10分未満
- ・10～30分
- ・30分～1時間
- ・それ以上

表2 質問項目に入れたアプリ名

種別	具体的アプリケーション名
ブラウザ	ブラウザ(インターネット)
ワープロ	二太郎 ワード
表計算	三四郎 エクセル
プレゼン	パワーポイント
写真	写真整理(jtrimやVIXなど)
教師用ツール	ラベルマイティ テスト付属成績処理
児童用アプリ	イントラパケッツ ジャストスマイル
メール	メール(本センターのアカウント) メール(本センター以外のアカウント)
その他	その他

## 3. 調査結果

### (1) 回収率

81. 8% (37校中30校)

**(2) 分析方法**

- ・各質問について、各個人ではなく、学校ごとの集約データとして集計
- ・アプリケーションとその利用時間を組み合わせた集計により、アプリケーションごとの利用時間のデータとして集計
- ・学校の実態（複式校・単式校）との関係についても分析する。

**4. 結果と考察**

**(1) よく使われるアプリケーションとその利用時間**

図1は、各校で最も多く利用したアプリケーションとその利用時間の組み合わせである。各校の上位3位までの結果を集計している。

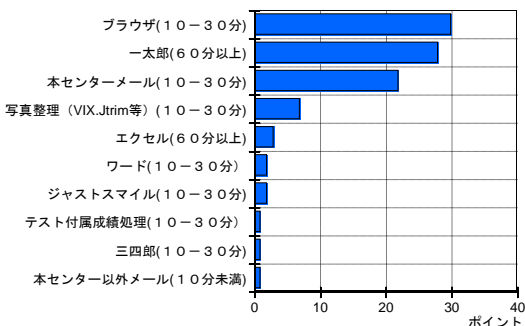


図1 各校の出現数上位3位までのアプリケーションとその利用時間

これによると、【ブラウザの10～30分】、【一太郎の60分以上】、【本センターが配付しているメールアカウントでのメール操作10～30分】という組み合わせが最も多い利用パターンであることがわかった。

**(2) 単式校と複式校での利用アプリの違い**

本調査地域はたくさんの複式校が存在するため、単式校と比べて、その利用アプリに差があるかどうかを調べたものが図2である。これによると、ワープロの利用においては、明らかに複式校の長時間化が目立つ。他のアプリケーションでも利用時間に差が見られた。

**(3) アプリケーションの種類とその利用時間**

図3は、今回の調査で得られた結果をア

プリケーションの種類と時間で表したものである。これによるとほとんどのアプリケーションで30分未満の利用が多い。限られた勤務時間の中で、短時間に様々なアプリケーションを切り替えながら仕事をしている様子うかがえる。

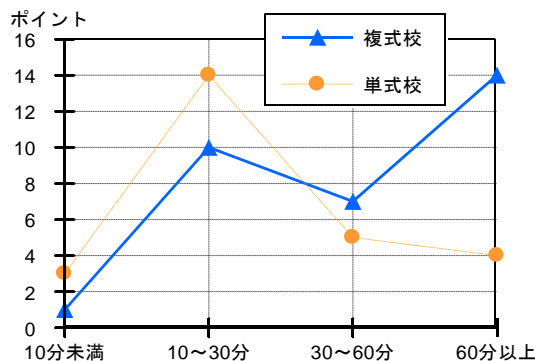


図2 複式校と単式校のワープロ利用時間の違い

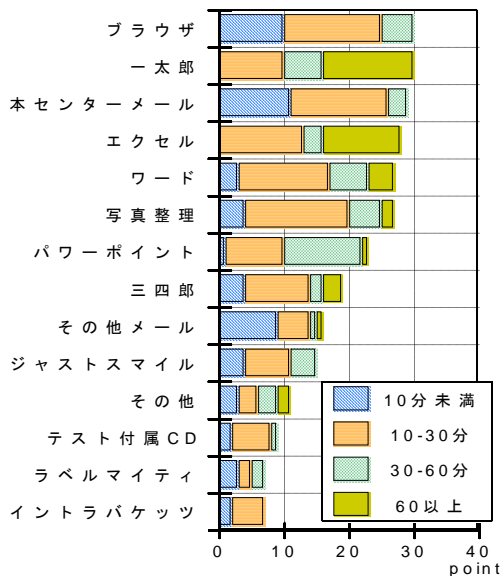


図3 各アプリケーションと利用時間

**5. 終わりに**

以上のことから、教職員のPC利用の特性として、多種のアプリケーションを短時間に利用するということが分かった。

**参考文献**

中川 斉史 (2007) NEW 教育とコンピュータ, 2007.6, pp.12-17